

# コーオプ教育プログラムの実施とその成果

## -実学主義の実現に向けて-

東京工科大学

戸井 朗人

### 1 はじめに

東京工科大学工学部では、2015年の学部創設以来、コーオプ教育を必修科目として取り入れ実施してきた。この中で、4年間にわたり約1000名の学生が約300社の企業で実習を行ってきた。現在までの成果を報告する。

### 2 コーオプ教育プログラムの概要

コーオプ教育とは、実践的能力養成を目的に学内の授業プログラムと学外の就労体験型学修プログラムを交互に受ける教育である。本学工学部で実施しているコーオプ教育は、約2ヶ月間にわたる有給での企業における実習と事前教育及び事後教育を組み合わせた総合的な教育プログラムとなっている。コーオプ教育を通じて、主体性や協調性といった非認知能力の養成、主体的な学修の定着、実践的知識と幅広い視野を身につけることを目的としている。

### 3 学生へのアンケート

実習を終えた学生へのアンケート結果では、実習を通じて学生は専門科目への興味が増大したと回答。また、学生は、専門以外でも就業経験を通じて社会人マナー、協調性など多くのことを勉強できたことと認識している。さらに、実習経験は就職活動においても役立つとの回答も多い。

### 4 企業へのアンケート

企業側に、能動自律、報連相等の6項目について実習の事前事後で学生の評価を依頼。企業評価では、実習前に、段取り及び問題発見・解決の評価が低いが、実習後の伸び率をみると、段取り及び問題発見・解決の伸び率が最も高く、まさに学生が不足する能力を実習で獲得したことが分かる。

### 5 PROGテスト

学生の社会人基礎力の伸びを客観的に評価するため、PROGテストを実施。今までに3回、実習前後でテストを実施してきたが、コンピテンシーは3回とも明確に実習後の方が向上しており、リテラシーも向上が見られる。

### 6 就職へ向けた動き

コーオプ教育を受けた一期生である昨年3月卒業生の就職に関するデータをみると、他学部よりも内定獲得時期が明確に早い。これは、実習を通じて社会人基礎力を獲得するなど、就職に向けて早い段階で準備ができていたことも理由と考えられる。また、約1割の学生はコーオプ受入企業に就職している。

### 7 まとめ

コーオプ教育は、現在までのところ所定の成果を挙げて来ている。これまでの成果と課題を踏まえ、工学部のコーオプ教育をさらに改善するとともに、来年度からは他学部への拡大を予定している。